



令和 6 年 9 月 2 日
目黒区立ひもんや保育園長

オリンピックイヤーのこの夏、5歳児クラスの子どもたちと一緒にオリンピックに触れたいと思い新聞を用意しました。子どもたちがそれぞれ気になった競技の記事を切り抜き、選手のことや競技内容、メダルの事などを話していると「すごいね、金メダル!」「じゃあみんなにも教えてくる」「これ、廊下に貼りたい」と作った記事を張り出すことにしました。中には「この人が可愛い」と嬉しそうにオリンピックとは違う記事を選ぶ子もいましたが「この人の名前は何?」と調べる姿を大事にしたいと思いました。その後も「今日も新聞作りたい」「お仕事しに来ました」と事務所にやって来るので、事務所は毎日作業部屋です。「きのう、テレビでこれ見たよ」「スケボー見た!」「金だよ」と子ども同士で話したり、協力して一つの記事を作ったりと、徐々に“自分たちの活動を自分たちで”充実させる姿になっていきました。中には、国に関心を持ち図鑑を広げ毎日国旗作りに励む子、家のパソコンでも競技の事を調べる子、家から『子ども新聞』を持ってきてくれる子と、それぞれの“知りたい”“やってみたい”など様々な意欲があふれていました。自分の知りたいことをどうすれば理解に繋がられるのか、考えたり探ったりして知識にすることを経験した子どもたちは“自分でやった”と自信いっぱいの笑顔を見せてくれました。

また、登降園時には廊下の記事を見ながら保護者同士や親子でオリンピックの話がされている声が聞こえてきました。5歳児クラスの活動が園全体に広がったようで、とても嬉しい気持ちになりました。

これからもいろいろな社会事象や文化に触れ、子どもたちの興味関心が学びに繋がる過程と一緒に楽しんでいきたいと思えます。



9月・10月の予定



引き渡し訓練
身体計測

運動会(2~5歳児クラス)
芋ほり遠足(4, 5歳児クラス)

~1, 2歳児の遊び紹介「水」「色」「発見」~

1歳児クラス

色の変化を楽しんで欲しいので、子どもたちの目の前で食紅を使って色水を作りました。粉を入れると子どもたちは「あっあっ」と指差ししながら、水流によって模様が出来る様子や、透明な水から赤い水へと色が変わっていくのをじっと観察していました。



あっ、あっ

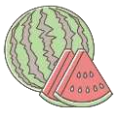
魔法の粉を入れるよ

2歳児クラス

クラスで育てている朝顔の花で色水あそびをしました。水と花びらを入れた袋を子どもに渡し、揉むと色が出てくることを知らせました。“なんで色がでるんだろう?”と不思議そうな表情を見せる子もいました。



ピンクー



プール遊びだけじゃない「夏」 ～幼児クラスが経験した夏をご紹介します～



たんぽぽ組（3歳児クラス）「すいかのたね」

おやつのスイカを食べた日に、絵本の「ばばあちゃんのすいかのたね」を思い出した子が「このたね、まいてみたいな」と言うと、子どもたち同士で「すいかがごろごろできるかも」と絵本のストーリーを思い出すようにして会話が始まりました。「せんせい、たねまきたい」というのでさっそく皿と綿を用意しました。子どもたちは種を大事そうに集めて綿の上に並べて霧吹きで水をかけると、大事そうに箱に入れました。毎日ふたを開けて種の様子を見ては「おおきなあれ」と声をかけています。数日後小さな芽が出ていることに気づき「しろいのでてる」「めがでてる」と箱をのぞき込んでいました。芽が出た種を保育士と一緒に土に植え替えました。双葉の先に種の皮がついていると、葉が開くようにそっと皮を外してくれる子もいます。絵本のようにすいかがごろごろと実ることを想像しながら毎日誰かしらが「おおきなあれ」と水やりを続けています。



こすもす組（4歳児クラス）「蛇口をひねったら」

園庭でビニール袋に水を入れて遊んでいる時に、一人の子が蛇口を思いきりひねると大量の水が出ました。さらに蛇口を上に向け、水が庭の方に放出されると「うわー」と、大騒ぎになる子どもたちです。楽しそうな姿に惹かれて一人、また一人と子どもが集まっていきます。蛇口をひねった子もさらに蛇口に指をあてたり方向を変えてみたりして、水の動きを変えてみせていました。すると周りの子どもたちも“水にかからずに通れるようにするにはどうするか”考え、マットを持って来て傘代わりにして通っていました。そのうちに数人で「せーの！」と水のトンネルを一緒にくぐってみたりして、何度も行き来を楽しんでいました。ダイナミックな水遊びをたっぷり楽しんだ子どもたちです。最後には全身びしょ濡れになり「あー今日の水遊び楽しかった」「またやろうね」と満足げな表情の子どもたちでした。



ひまわり組（5歳児クラス）「オリンピックごっこ」

オリンピックの広告作りや話題から「ぼくたちもオリンピックしたい」という声が上がりました。「バスケしたい」「やり投げしたい」「やりを作りたいから長い物が欲しい」と必要なものを自分達で考え、材料を用意すると友達と試行錯誤しながら作っています。槍作りでは投げて試しては先を細くしたり、長さを調節したりするなど工夫していました。出来上がると審判役の子が「やり投げ大会始めます。〇〇選手、どうぞ」「次は△△選手です」「すごい跳んでます。新記録、金メダルです」と距離を競って楽しんでいました。金メダルを贈呈しながら「今のお気持ちは？」と実況アナウンサーまで登場するなど、盛り上がっていました。ホールではバスケの試合をしたり、部屋では卓球の試合が開かれたりとオリンピックへの興味関心から次々と遊びに繋げていった子どもたちです。いろいろな刺激を受けたりしながら遊びの世界が広がっています。

